

## “Sweet Caroline とボストン”

佐 野 純 一

ボストンの野球チーム、レッドソックスの2013年度ワールドシリーズ優勝は日本人投手の大活躍で地元に住む日本人としてこんなに嬉しいことはありませんでした。上原浩治がほとんどの場合抑えの投手として、ウイニングボールを投げたので新聞やテレビで毎回大写真で紹介され、まるで彼が一人で勝ち取ったように見えました。去年は全員団結で前年最下位だった屈辱をぬぐいました。田沢純一投手もほとんど毎回中継ぎとして出て、よい成績を上げていたので好評です。私も下の名前が純一ですので、ふだん、佐野ではなく「ジュンイチ」と呼ばれます。お前と同じ名前のピッチャーは大活躍していると言われて悪い感じはしません。しかし、ジュンイチという名前は覚えにくいので「六月 (June) になったら汗ばんだり虫にさされたりして、かゆく (itchy) なることが多くなるだろう。そのようにして覚えればよい。が、本当の意味は Pure Number One だ」と説明しています。ボストンレッドソックスのホームゲームでは、いつも8回裏の始まる前に観客全員が立ち上がって“Sweet Caroline”の歌 (Neal Diamond 作詞作曲, 歌) を斉唱します。2001年9月11日にニューヨークの貿易センターで起こったテロ事件の後この慣習が始まったようですが、なぜ“Sweet Caroline”なのかは諸説あり、確かなものはありませんが、Caroline Kennedy がモデルである説が有力です。ボストンマラソンの爆発事件後、宿敵ニューヨークヤンキースとの試合ではヤンキーススタジアムでこの曲が演奏されました。いつもならヤンキースファンから大ブーイングが起こるところですが、その時は皆が一緒に歌ったとのこと。この度ボストン地区出身の Caroline Kennedy さんが駐日アメリカ大使に就任されたことを大変嬉しく思います。

今までの駐日大使の任命就任がニュースの表に出たことは無いのに、今回は全国ニュースで大きく報道されました。米国会での承認喚問では与野党共に賛成でした。過去の駐日大使で日本文学が専門で日本生まれのライシャワー氏もボストン近郊に住んでおられました。皇太子妃の雅子さんはベルmont 高校、ハーバード大学とボストン近郊で過ごされました。29年間ボストンシンフォニーの常任指揮者を務められた小沢征爾氏はレッドソックスの大ファンで、シーズン最初の試合で米国歌の演奏をされたこともあり、ボストン市に尽くした功労でフェンウェイパーク球場には常に特別席が用意されているそうです。

ボストンに関係した日本人はたくさん居られます。古くはボストン美術館で活躍された岡倉天心氏。音楽評論家で有名だった堀内敬三氏は MIT の機械工学科で自動車のエンジンの研究で修士号を取得。在学中鰻井の「たれ」が欲しくて両親の事業の浅田鮎本舗から水飴を取り寄せて自分でたれを作ったと本人が雑誌に書いておられました。他にも MIT メディアラボ所長の伊藤穰一氏、ノーベル賞の利根川進博士 (MIT) と下村修博士 (ボストン大学) がおられます。勿論元ボストンレッドソックスの野茂英雄や、松坂大輔・岡島秀樹投手たちもいます。

私はアメリカに住みついて48年になります。10年ほど前から我が家でも TV-JAPAN を通して日本のテレビが見られるようになり、日本の様子が分かるようになりました。家族は妻と子供3人、孫5人、健康に恵まれて余生を楽しんでいます。私はこの地で骨を埋めることにはなりますが、それも良しと思っています。

(通信工学科 昭和31年卒)